村松麻由
原作：舞阪洸
キャラクター原案：ようオ
落ちてきた龍王（ナーガ）と滅びゆく魔女の国
3
MFコミックス

ハリガンたちの様子はどうじゃ
エリュシオーネ
一族総出でカサンドラ王国軍と戦うようです
第11話 開戦前夜
なんじゃと!?
吾らに助力を乞うてもこんのに!?
まさか玉砕覚悟ではあるまいな
ハリガンが負ければ吾らが人の軍の矢面に立つのは避けられまい…!!

落ちてきた龍王(ナーガ)と
滅びゆく魔女の国
3

contents

第11話
開戦前夜—001

第12話
開戦前夜 II—029

第13話
戦端、開く—053

第14話
二の矢—089

第15話
その名は…—121

Mayu Muramatsu
村松麻由
Kou Matsaka
原作 舞阪 洸
キャラクター原案 よう太

エリューよ
引き続き
ハリガンたちの
見張りを
任せる
ヘマをしたら
裸に剥いて
木から吊す
ああ母様
なんと
ご無体なっっ!!?
それが嫌なら
しっかりと
見張り
委細
漏らさず
報告せよ
わかりました
母様
ズズズ

くれぐれも油断するなよエリュー
ハリガンにも人の軍にもな
承知しております母様
その体勢で話すな気味が悪い!!
エリューは魔力は高いし戦闘力もあるが
基本馬鹿だからのう……
それにしてもハリガンめ
何を考えておる
――というか吾に迷惑をかけたら許さんぞ!!
もしそんな真似をしたら
裸に剥いて尻を百叩きしてやるからな!!

行きますよ
みんな離れて
やっ…
フウ…

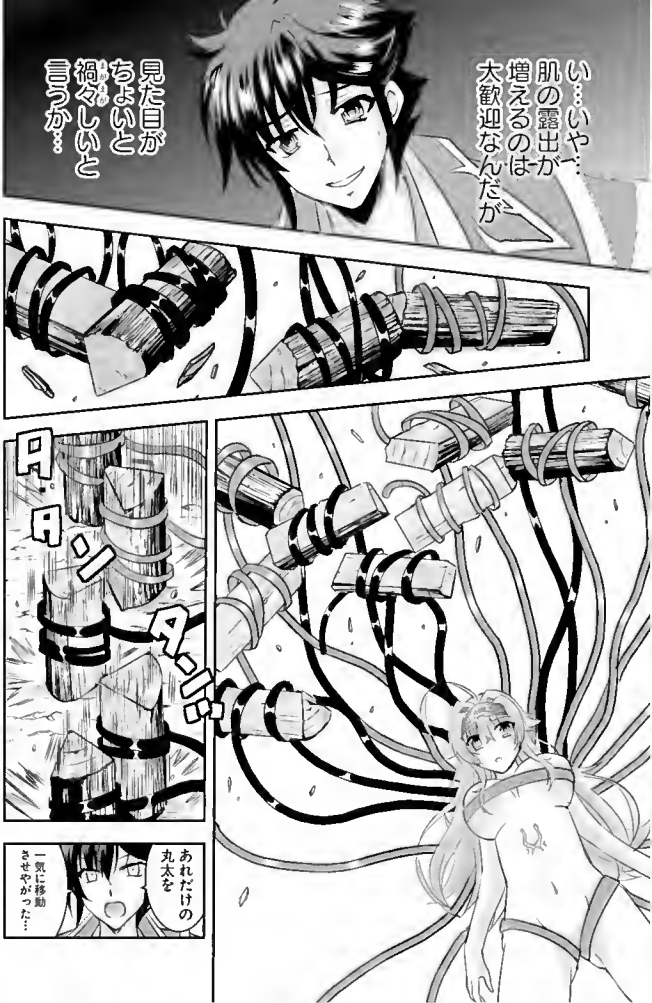
オオオオオン
やっぱり人間破城槌だな…
アイスは……
ズズズ
おおっ
ボーッと突っ立ってられると邪魔なのよ！
はいどいてどいて！

おい！
俺は二千の兵と
二十人で戦うために
戦の準備の
指揮をだな…
タッ
…って
聞いてねーな
もうだいぶ
慣れてきたが
あの衣装は
俺には
刺激的
だなぁ…
刺激的と
いうか
魅力的と
いうか
魅惑的と
いうか…

切る魔 切る間 切る目 切る真
弱きところを探りて断ち
堅きところを探りて避けよ
太刀敵を盾
質堅きを断て——

風神の封神を解き
風神の風刃を振る舞え!!!
スパーン
スパーン
!!
はいできた
次私の番

ガバッ


い…いや…
肌の露出が
増えるのは
大歓迎なんだが
見た目が
ちょいと
禍々しいと
言うか…
A.A.ンタン…
あれだけの
丸太を
一気に移動
させやがった…

これで不気味にならないくらいに脱げばいいのな
ふ…ふしだらなことなんて考えてねーぞ!!
まだ何も言ってないわよ
おいおい！
まったくおまえらには感服するぜ
四半刻も経たないうちにこんなに……！

おまえら三人で
木樵二十人分くらいは働いてるんじゃねえか!?

馬鹿なこと言わないでよ!!

な…何怒ってんだよ
俺は誉めてんだぞ!?

私とアイスとクゥの働きは木樵二十人程度じゃないの!
五十人分くらいは働いてるの!!
正しく評価しなさいな!

あ…ああ
そいつはすまなかったな…

ふん
わかれば
いいの！
アイス
次行くわよ
次っ
ナーガさん
なかなか大変
あ――まあな
大変って言やあ
大変だけど
今までおまえたちの
集団には
男がいなかったん
だろ!?
そこにいきなり
俺が加わったんだから
ユウキが嫌がるのも
無理はないさ
それより
おまえたちは
平気なのか!?
どこの
馬の骨とも
わからない男が
加わることに
なって

ユウキ
人間を知っている
でも私たち
よく知らない
だから
あまり嫌いではない
……
でも…
だ
人間は
おまえらの
ことを
攻め滅ぼそうと
してるんだろ!?
私たちを
攻め滅ぼそうと
する人間
もちろん
嫌い
でも
滅ぼそうと
しない人間
好きでも
嫌いでもない

私たちを
助けてくれる人間
好き
だから
ナーガさん
今のところ
好きな方
お
そうなのか？

カサンドラ王国軍
撃退したら

もっと
好きになれる

くはっ
そうか！
じゃあ
気に入られるよう
頑張らねえとな！

勝てるの!?
…まそりゃ不安だよな
こっちは二十人しかいねえのに相手は二千だからな

さてどうだかな
たしかに戦は質より量だ
とはいえ少ない方が負けるわけでもない

要は
戦うための準備と
戦い方次第ってことだ
？？？
まあ
勝てるとは
約束できないが
最初から
勝てないと思う
こたぁないって
ことさ
おまえらだって
数百の敵と
戦ってきたじゃないか

…そう
私たち
戦った

あのね
ナーガさん…
ちょっと
クゥ！
何遊んでんの
のよ!!

みんなまだ働いてるのよ!!
そんな奴と話してるヒマがあったら残りの丸太を運んでハリ姉を呼んできて!!
ごめん

あんたも!
すけべ根性丸出しで他の娘に話しかけてんじゃないわよ!

ああ
わかったよ

あいつはあいつで
凄えことしやがるな
あの重たい丸太を
どうやって
均衡を保ってるんだ!?
魔法だから
そんなの
関係ないのか!?

未だ魔法って
やつには
驚かされっ
ばなしだが
それを使える者には
相応しい戦い方が
あるはずだ

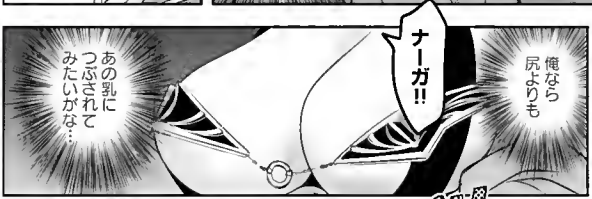
要は「彼を知り
己を知れば百戦して
殆うからず」って奴だな…
孫子…
誰だっけなあ
こいつ
…って
また孫子か

…ちっ
もう少しで
はっきり
しそうなのに

皆ご苦労だったな
待ってたぜハリガンさんよ！
準備できました
姉様
うむやってみるか
そこに一組並べてみてくれ
へー

ペチ

それにしても
デカい尻だなぁ…
ちょっとした
武器にも
なりそうな…
あの尻に
押しつぶされても
したらひとたまりも
ねえよな
いや
それだと
むしろ嬉しいか…!?
ナーガ
できたぞ


俺なら
尻よりも
ナーガ!!
あの乳に
つぶされて
みたいがな…

これっ!!
ゴ!!!
――ってえ!
って
木槌かよ!!
さっきから
呼んでおるのに
上の空
だからじゃ!!

それにしても
見栄えが
悪いのう
姿形なんて
どうでも
いいんだよ
こちらの
期待どおりに
動けばな
ハリガン
試しに
動かしてみちゃ
くれないか？
想定どおりの
動きが
できるか
確認したい
承知した
レラ
人の兵が
持っていたあれを
はい姉さ
ま
カタ

ヒュ
ガッ
ガッ
ガッ

ヨタ
ヨタ
ヨタ
ぷっぷっ
撃ち方用意
ギ
ミシ
やれ!!

このくらいの動きはさせられるが
正確に狙うのは無理だぞ!?
構わないさ
こいつを数撃ちゃいいんだ
狙う必要がないだけの数を用意してな

～第11話おわり～

第12話 開戦前夜 II

ダッ!!
ダッ!!
ダッ!!
敵がこいつを
砦に置いて
いってくれた
おかげで
俺にもやっと
「足」ができたって
感じだ
木偶人形の方は
あとはハリガンに
操る訓練をして
もらうだけ――

作った木偶は
ざっと三百
ハリガンなら
半日もあれば
会得するだろう
あとは
向こうの
細工だけだ
ガリガリ
先に
作業が
始まってる
はずだが
さあて
どうなっている
ことやら…

よし
来たわね
ゴゴゴ
ズドドドドド

ノノエル
あとは
任せたわよ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
わっ

ゴゴゴ…
ご苦労さま
ノノエル！
これでかなり
水が堰き止め
られたわ！

い…
あっ
いいとこに来たかもしれねえ……！
ぽよ
うはっ
たゆん

！
すごく
視線を感じると
思ったら…
やはり
あなた
でしたか

お…おまえの下帯姿があまりに…
……じゃなくて！
おまえの働きっぷりがあまりに見事でなっ…
まそういうことにしておきましょう
そういうことってどういうことだよアイス…！
ばん
ぶヒッ
あ――おまえまで！
なんとなくいうう

…みんな
潜って出て
来なくなったな

堰作りの
仕上げに
入ったと
こ
縄で丸太を
縛って固定
していい
る

残念です
ね
みんながせっかく
いつもより薄くて
面積の小さい服を
着ているの
に
見えなく
なって
しまっ
て

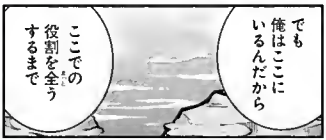
お…
おまえなぁっ
俺をなんだと
思って…

ねえナーガさん
こういう作戦は
あなたのいた世界では
当たり前
だったのです
か？

おまえ
面白いこと
訊くな
私たちの世界には
ないやり方だったので
そうだなぁ
……
今ナーガさんが
見ている空は
この世界
ではなく
元いた世界の
空なのでしょうか…

すまん
やっぱり
はっきりしたことは
わからねえや

でも何か
思い出す
ことがあれば
おまえには
話すさ
約束する


でも
俺はここに
いるんだから
ここでの
役割を全う
するまで

それは
この戦に
勝つことだ

でないと
おまえたちの
未来はない
おまえたちに
ないってことは
俺にもないってことだ

私たちと
一蓮托生
だと思って
くれて
る
あの…
この戦…
是非とも
勝ちたいで
す……！
初めてだな
魔女たちの口から
はっきりとその言葉を
聞くのは
ところで
レラ
おまえは
壁を作る
作業を
手伝わないん
だな
私は…
その先の未来を
見てみたいから
私は力作業や
作ったりするのが
苦手なの
で…
燃やしたり
壊したりは得意
なのです
が…
ぐはははは
はっ
おまえも
他のやつら
みたいに…

あれくらい小っこい衣装で
水に潜ってくれたら嬉しかったんだがなぁ！
ズボッ
あっ

あれっどうかしたか!?
くくく

……！

な…なんでもな
い…

あららら
あら
二人とも
楽しそうで
いいですね？
ポヨ
ポヨ
ポヨ
ペロ
ペロ
こ…
こいつは
私たちが
…
水に浸かって
一生懸命
働いてるとき
にっ!!
働いてるときにっ
働いてるときにっ

大事なことなので三回言いましたけど
ナーガさんとレラは楽しそうにお話ししていていいですね
いぇいぇいぇ
ぇ
いやいやいや
もちろん手伝う気満々だぞ
なあレラ!?
そうですか
なら…
と…当然です
手伝ってもらいましょーか!!!
なっ!?
えっ

きゃ――っ
わ――っ!!?
とばっちり
ばんっ
こらアイス!!
なんてことしやがるっ!!
ぶわっ
すげえ水飛沫だ
岩か何か落としたのか!?
岩ではありません私です…
すっ
すみませんすみませんっ
っていうかアイス俺より体重が…

——で俺は何を手伝えばいいんだ？
特に手伝っていただくこともないので
水から出てくださって結構です
…と思ったのですが
よくよく考えたら
あなたに手伝っていただくことがないのに気がつきました
なんだってぇ!?
手伝えと言って突き落としたのはおまえだろーが!!

こ…こいつはぁ……
レラももう水から上がってますからナーガさんもどうぞお上がりください
…ったく…
けど…
よくできたお姉さん的なこいつでもこんな悪戯みたいなことするんだな

やれやれ…
酷い目にあった…
まいったなぁ……
濡れたままだと馬に乗れねーぞ…
くぅんっ
なんか子犬みたいで可愛いな
ふるふる

おい大丈夫か
へ…平気
火を点けるから…
な…何をしているの…？
ベチャッ
火が点くんなら乾かそうと思ってな
おまえも脱いで乾かした方がいいぞ!?
わ…私を脱がそうとしてる!?
わ…私はいいい
何もしなくても乾きが早いから
火に当たればあっという間に乾く

ざくっ
あらあら
あら
二人とも
結局また
楽しそうに…
ナーガさん！
どうせ
濡れたん
だから
こっちに来て
泳がない!?
ちょっと
ケイ!?
いいじゃんか
どうせもう作業も
終わりだし
ちょっと
くらい
息抜き
しても！
ぴよーん
なあ
みんな!!
はーいっ
したい
したい
——!!

アイスとレラばっかナーガさんと遊んでずるいんじゃない!?
あたしらもナーガさんと遊びたいじゃんか!
アイスばっかずるいぃ〜
独り占め反対
仕方ないわね
少しだけですよ!?
はぁいナーガさぁん
こっちへおいでなさいなぁ〜
ナーガさんっ一緒に遊びましょぉぉぉっ!!

アイス！
いいのか!?
ええ
でもあまり
羽目をはずさないで
くださいね？
具体的には
水の中で
みんなの服を
脱がすとか
おまえ俺を
なんだと
思ってんだっ
おーい
ナーガさん
早く早く
おお！
今行くわ
レラ
おまえは!?
泳ぎは
あまり得意では
ないか
私は遠慮
しておく
ら

私…一緒に
水に入るのが
恥ずかしかっ
た…!?

でも
その前に
戦に
勝たなくて
は…

あの人が
この世界に
来れたのなら
私も彼の世界に
行けるかもしれない

～第12話おわり～

シュバイツ川
黒い森に
源流を持つ
この川を
ナーガたちは
今回の
主戦場とした
こういう
一か八かっていう
状況に置かれる
のは
あまり好きじゃ
ないんだがな

これは
いつも強気な
龍王様の言葉とも
思えんな
俺は元々
「兵は質よりも量」
派なんだ
できることなら
兵を集めて
戦力で圧倒する
戦がしたいんだよ
戦力に
ついては
難しいが
これで少しでも
おぬしの不安の
解消の助けになれば
良いのだがのう
も…
もしかして
俺の鎧かっ…!?

第13話 戦端、開く

これを…
戦の合間に!?
うむ 皆で
手分けしてな
おぬしが着ていた物を
参考に意匠を
考えてみたのだが
気に入って
もらえるだろうか

ああ
ちょうど
新しい服が
欲しかった
ところだ
ありがたく
受け取らせて
もらうよ
セレナ
近くに敵は
いるか!?

待ってください
姉様

そのユウキには

今回 別の

重要な役目を振ってあるが…

あんたの指示は受けたくないけど
私たちの未来がかかってるんだもの
死んでもやり遂げるわよ！
その意気だ
でも死んだら駄目だぜ!!

も…もちろん死ぬ気なんてないから
あんたは心配しなくていいの
でも私が作戦の肝心要なんだから
あんたが心配するのも当然だけど

どっちだよ
だっ
だからあ
心配する必要なんかないけど
ちゃんとしなさいよっていう…
…ったく…
何を考えているんだか……
どうだセレナ!?

ならば
そろそろ丸太人形を
並べる作業に
取りかかろうか
そうだな
周囲に
敵の姿は
ありません
ザッ

敵の目から
自分の身を
隠すための穴だ
しっかり
掘れよ！
ザクザクザク

よっと…
こんな
ものか!?

問題ないと思う
上から土をかければ遠目にはわからないはず
だったら俺の分は
これでよしと
それじゃあハリガンの分も掘っておくか
あいつの場合俺たちより深く掘らなきゃならないから
大変なんだよな…
ザクザク

えっと…
それは姉様が巨乳だから
穴が浅いと背中が隠れないと言っている!?
そういうことか
ここだけの話だけどな
あの胸を全部収めるには
このくらい掘らないと……
ガッ
痛えっ!!

吾は乳お化けかっ!?
ぼよよん
そう怒るなってちょっと話を膨らませただけだろ
あんたの胸が膨らんでるみたいにさぁ
おぬし知略に長けてる割には
洒落や冗談は下手だのう
知略…!?
別に俺は大したことは考えちゃいねえ
単にこの世界の奴らが揃いも揃って馬鹿正直なだけ…

どうした!?
何か問題
でも?
いや
何でもねぇ…
待て
もう
そのくらいで
良かろう
ぽん
よん
よん
いやいや
……
だから胸で
判断するのは
やめいと言って
おるだろーがっ!!
ガガガ
ガガガ
えっと
ナーガさん!
私のも
掘れましたっ

小さな体で
よく掘ったな
体はちゃんと
隠れそうだが…
あとは天眼が
使えるかだな
やってみます
川向こうに
カサンドラ王国軍
部隊が野営して
いるのが視えます
その数およそ
五、六百と
いったところ…
さらに
その向こうにも
敵部隊が
います
その数…
一千以上…
ですが川の
こちら側には敵影は
ありません
そうか
もういいぞ

ナーガさんっ
こっちも自分の分
掘り終わった
よ――!!

ハリガン
夜明けまで
あと どの
くらいだ!?
一時ぐらい
だと思うが

それまでは
敵が動かない
だろうし
特に
することも
ないな…

みんな
穴に横になって
体を休めておけ
寝てしまう
わけには
いかないが
静かに横になって
目を閉じているだけでも
疲れは取れる

ただし
セレナだけは
目を開いていて
もらわないとな
わかって
います

頼んだぞ!!
最悪逃げる必要に
迫られた時
おまえが疲れて
動けないようなら
俺が
背負っていって
やるから

よ…
よろしく
お願いします
いーのかな
セレナ!
それって
ナーガさんに
体中触られ
ちゃうって
ことだよ!?
触るかよ!
適当なこと
言ってんじゃ
ねえぞケイ!!

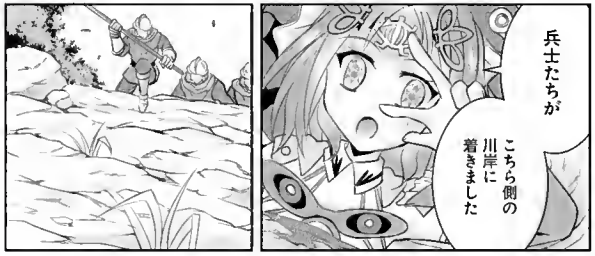
えっへっへ
ナーガさん
その時は
あたしもついでに
背負ってってよ
おまえまで
背負ったら
俺が走れなく
なるだろ!!
ちぇっつ
そんな
みみっちいこと
言ってると
龍王の名が
泣くよ〜!?
こいつは
本当に
馴れ馴れしい
奴だな
魔女にしては
珍しいっていうか

けど…
みんな
それぞれ
個性があって
面白い奴らだ
こんな奴らを
人に非ざる
悪しき存在
などと言って
滅ぼそうと
するなんて
――!!
はわわっ

ナーガさん
ケイは私が
運ぶから
安心して
やだよう〜!!
ほれ!
いつまでも
遊んどらんで
とっとと穴で
横にならんか!!
あ…
ああ
いや…これは
「面白い」で
いいのか…?
は――
――いっ

ナーガさん
敵が川原に
進出して
きました
対岸を確認
している
ようです
む…
向こう岸に
何か…
得体の
知れない
ものが…

ヘイロウズ！
小隊を率いて
あれが何なのか
確かめよ！
はっ
ただし
確かめる
だけだ
無闇に
近づくな


兵士たちが
こちら側の
川岸に
着きました

あ…
あれは…
切り株
……!?

…というより
手足のようなものが
ついてるぞ
木の人形じゃ
ないか!?

まったく
動かないな
やはりあれは
ただの人形だ

だが…
いったい誰が
あんなものを
置いたんだ!?
まさか…
魔女が
……!?

だが
何のためだ?
俺たちを
脅かすつもり
とか……
あんな
物でか!?
何かの
呪(のろ)いかな?

どうしますか
ヘイロゥズ
部隊長!

周りには
魔女が隠れるような
場所はない
奇襲を恐れる
ことはないだろう
あれが魔女の
置いた人形だとしても
あんな小さな物が
脅威になるとは
思えん

そうだ
……
そうだよな…

ではもう少し
前進する!!
こちらに
渡って来た兵は
およそ三十名
慎重に
木偶に近づいて
いきます

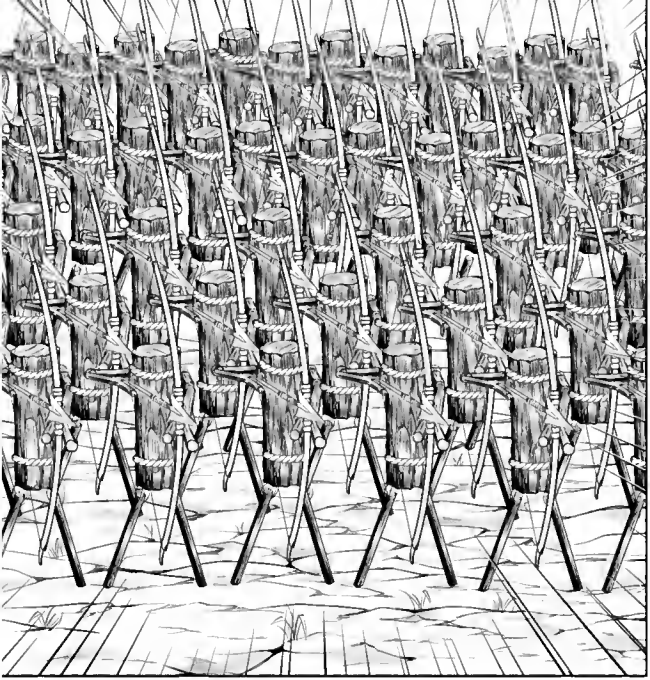
それ以外の兵士は
川の向こう岸に
待機しています
本隊
物見部隊
木偶
ナーガたち
そうか
今のところ
期待どおりの
動きをして
くれてるな
魔女たちから
一人の犠牲者も
出さずに勝つ
そのために
これだけの
準備を
してきたんだ
これで駄目なら
後がない
くらいにな
頼むぜ……
勝利の風が
こちらに
向くように……

微動だにしないな
当たり前だ人形なんだから
本隊に戻りますか!?

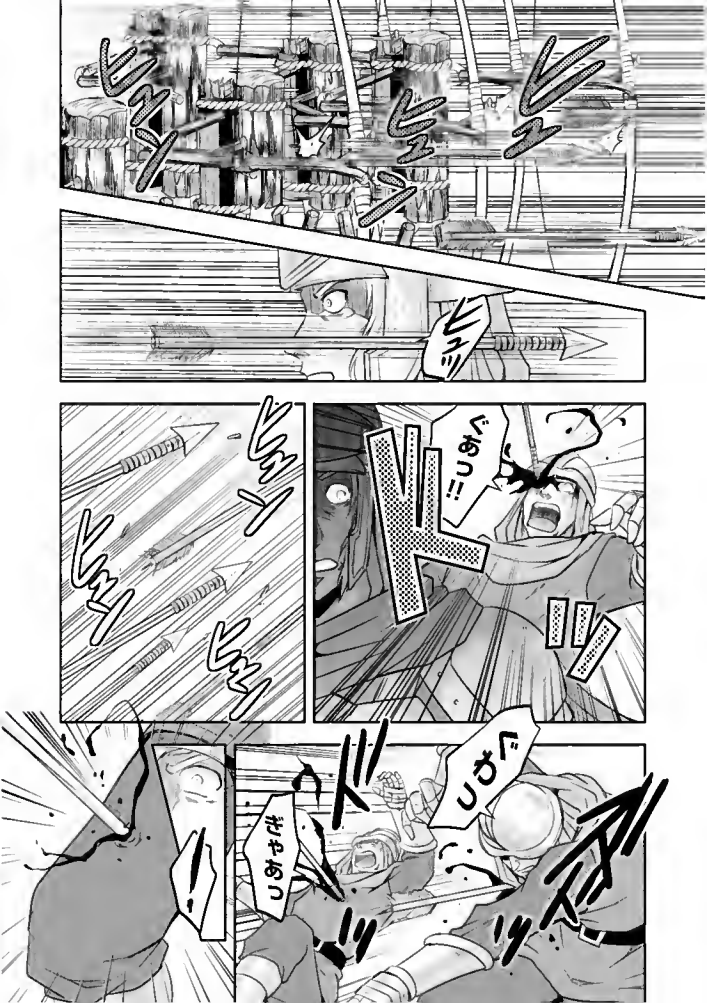
いや…無闇に近づくなと言われたが
このまま帰るのもな…

あれが何だか中隊長に説明するのも難しいですから
見本を一つ二つ持ち帰ったらどうでしょうかね？
確かにな
それが一番話が早そうだ

人形を運ぶ
半数ほど来い
ん!?
何か…
持ってる!?



いかんっ!!


ヒュッ
ヒュン
ヒュン
ヒュッ
ぐぁっ!!
ヒュン
ヒュン
ぐぁっ
ぎゃあっ

ぐっ…！
味方が攻撃を受けている!!
戻って中隊長に報告するぞ!!
ガガガ
バッ

騎馬隊が川を渡って向こう岸の本隊へ戻りました
川の水がいつもより少ないことに気づいた者はいそうか!?
いいえ その様子はありません

いいぞ
風がこっちに来てる感じだ……！
敵襲!!
敵襲です!!
川向こうで物見部隊が敵の攻撃を受けています!!
どうした!?
敵襲とはどういうことだ!?
詳細は不明ですが
味方が襲われて被害を出していることだけは確かです！
な…
にっ…
馬だ
馬を出せ!!

川を渡る！
者ども続け!!
お待ちください まだ状況が把握されず…
味方を見殺しにできるか馬鹿者!!
そんなことをすれば——
作戦失敗の責任を取らされ中隊長から輜重部隊長に左遷された
ライバッハの二の舞いになる……！

ぬっ!?

あんな
ガラクタが…
ヘイロウズの隊を
全滅させたと
いうのか…!?

さっきより接近している…
奴ら移動もできるのか……!?
ぐおっ
がはっ
!
くっ…ここはいったん戻り
部隊を立て直さねば……!!

～第13話おわり～

カサンドラ王国軍の
第二中隊は
兵の七割を失い
本陣へ帰投した
くそっ
魔女だ…
大隊長
スナイデル
あれは
魔女による
魔法攻撃だっ
……！
こんな面妖な
戦い方が
魔女の本気
なのか…!?
い…いったい
どうすれば…

ええい
うろたえるな！
相手が
魔女だろうが
人だろうが
我々の進軍を
阻止すると
いうのなら
蹴散らすまでだ！
伝令！
各部隊に
直ちに伝えよ
はっ
「我が第二大隊は
後続の渡河の安全を
確保するため
出現した木偶を
強制排除する!!」

第14話 二の矢

そろそろのはずなんだがな…
ユウキの奴……
まさか敵に見つかったんじゃないだろうな
ざっ
ざっ
ざっ

いえ…それはありえません
もし見つかったなら敵に特別な動きがあるはずです

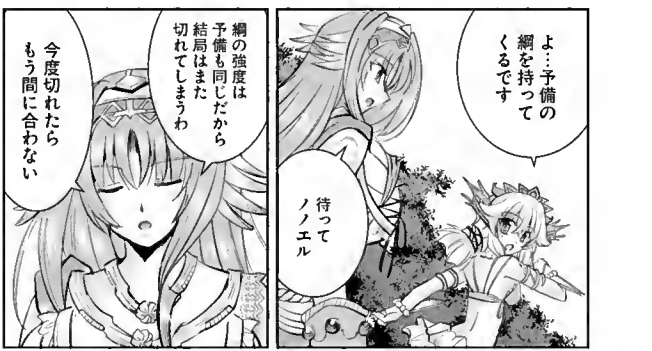
なら問題あるまい
だといいんだがな
へえっ
あの人でも焦れることがあるんだね…

！
ナーガさんっ!!
ユウキに何か!?
いえそちらではなく…
敵の第二陣が渡河を終えてしまいそうです
これで二百ほどがこちら岸に渡ることになります
ちっ！
不味いな次の作戦で狙う部隊を
易々とこちら側に渡らせちまうとは……！
くそっどうなってやがる！
ユウキの奴は飛んでるんだもうアイスには伝わってるはずだろう!?

どうしたユウキ…
何があったアイス…!!
それより少し前のこと
来たわ!
アイス!
木偶の方は成功成功成功――!!
やっちゃって――!!

よしっ！
ギ!
〜〜〜
!!!
グイッ
グイッ
グイッ
きゃっっ!!

まさか網の方が切れてしまうなんて…
少し堰を頑丈に作りすぎたかしら!?
ちょっとどうしたのアイス!?
堰をつないでいる網が切れてしまったのよ
ど…どうするのよ!?
早く堰を壊さないと敵部隊が全部川を渡っちゃうわよ!?


よ…予備の網を持ってくるです
待ってノノエル
網の強度は予備も同じだから結局はまた切れてしまうわ
今度切れたらもう間に合わない

じゃあ
どうするのよ!?

こうなったら
仕方ないわね
水に入って
直に
壊しましょう

え…
ええ!?

け…
けど…
間に合わせるためにはそれしか方法がないわ
ノノエル！
は
はいですっ
上流から水の流れに乗せて私をぶつけて
で…
でも…

早く壊を壊さなくては
この作戦は瓦解する
そうなればこの戦い私たちの負けよ

大丈夫
私は ほらっ
頑丈だから
水に押し流され
ても平気よ
あ
でも後で
拾いに来てね
わかった
アイス
やります
です
ユウキは
壁が決壊したら
戦場まで
飛んでね
他のみんなは
この場で待機
姉様か
ナーガさんの
連絡を待つ
いい
わね!?
じゃ
行くわね

荒ぶる水神の
御名にて

水辺の水よ
立て
起て
建て
ゴゴゴ
ゴゴゴ
起これ
興れ
怒れ

抗う者を
争う者を
仇為す者を
洗い流せ
荒い長瀬

うっ…結構流れが
キツいわね
でも…

ドゴ
ドゴ
ドゴ

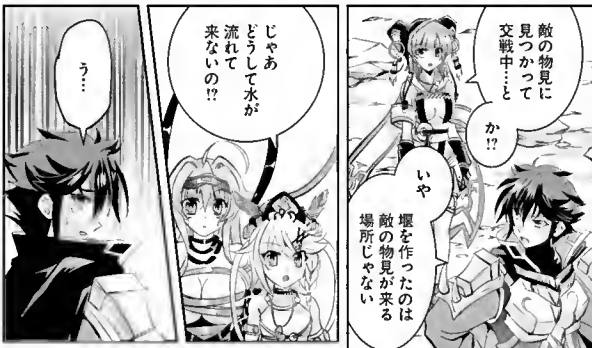
やったぁ!!
ゴオオオオ…

ア…
アイス
……!!
追いかけますです！
ノノエル
!!

ノノエルは水を自由に扱えるし
こっちは私たちに任せてユウキは早く戻りなよ
私たちもアイスを捜しに行くから
え…
待機じゃなくていいの……!?
アイスが危機に見舞われてるのに待機なんかしていられないよ
ここは一人残れば十分！

それじゃあアイスのこと頼んだわよ——っ!!!

ナーガさんっ！
二番目の部隊も川を渡り切りました！
不味い…
不味いぞ……
これ以上仕掛けの発動が遅れるようだと
俺たちは想定外の数の兵を相手にすることになる…！
ユウキが無事向こうに行っているとすれば
何かアイスたちに問題が…!?


敵の物見に見つかって交戦中…と
か!?
いや堰を作ったのは敵の物見が来る場所じゃない
じゃあどうして水が流れて来ないの!?
う…

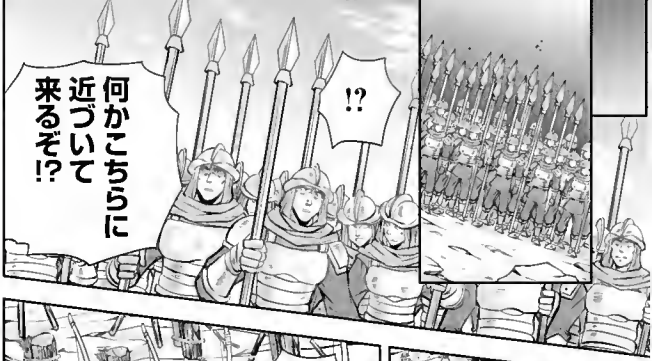
どうするナーガ？
このまま待っていては兵がすべてこちらに来てしまうぞ!?
決めた
渡河している部隊を攻撃しよう
いいのか？

ユウキが
無事なら
堰の破壊は
何かあって
遅れている
だけだろう
俺たちが
攻撃すれば
その途中で
水が押し
寄せて
来るさ
水が来るのを
漫然と待っていては
渡河した部隊に
好きなように陣を
敷かれてしまう
これ以上
想定と違った
展開には
したくない
……！
ナーガ!?
だ…第一
向こうを
預かってるのは
アイスだぜ!?
あいつが堰を
壊す程度の
ことを
失敗する
はずが
ないだろう！

そうか
そうだな
では
闘るか

よし
進むぞ
俺とケイが
最前線に
立つ
ハリガンの
護衛はレラに
任せる
セレナは
引き続き
周囲の警戒を
クゥは森から
馬を取ってきて
くれ
敵が突破
してきたら
乗って出る
わかった

持って出た
矢避けの盾を
使う時が来た
ようだな
そいつで
しっかり
身を守れ


何かこちらに近づいて来るぞ!?
!?

なんだ
あれは!?

あれが…
味方の物見部隊を攻撃した丸太人形じゃないか!?

弓を撃ってくるぞ
陣形を崩すな
急げ!!
弓隊こちらも弓を構え!!
撃てェ!!

ぐあっ
へなちょこ
矢なんか
刺さらないよ♪

あたしは
体を硬化させる
ことができるんだ
おまえ…
すごい体
してんな…
…って
ことだから
ナーガさんは
安心して
あたしの背中に
隠れてるといいよ

呪符で効果を高めてるからな
もちこたえられる
おい！
そっちは平気か!?
なんとかしばらくは戦えそうだな
だが…

まだか
まだなのか
ナーガさんっ
今…
ワイアアア

ドドド

うわあああ
――っ!!
ドドド

作戦…
成功…
だわ…
いくら体が
頑丈でも
水の力には
抗えない
ものなのね…

ああ…
ナーガさんと
もう一度
会いたかった
な…

ノノエル
――!!
~第14話おわり~

か…
川が……
ガラ
ガラ
ゴオオオオ

第15話 その名は…

ナーガさん
馬
連れてきた
おっ
ちょうどいいときの
ご登場だな
よっ
ナーガさん
一緒
いい？

私がいれば
敵の弓矢
怖くない
この馬に
一緒に乗りたいと
言ってんのか!?
ん!?
こいつ…

うーん…
そうだな
おまえなら
戦力に
なりそうだ
なら俺の
後ろに
……

おい
こら!
そっちじゃ…
前の方が
防御し易い
だめ?

ま…まあ
それでいいわ
ナーガ！

木偶の残りが
もう百体も
ないぞ！
そのうち
突破されそう
だ!!

敵のほうは!?
まだ百は
います！
ということは
そろそろ
限界だな

突破してきた敵の攻撃は俺とクゥ
それにケイで行う！
ケイ行けるな!?
ル
もっちろん！
こっちはいつ敵の中に飛び込んでも平気だっての！
気をつけてゆけよ

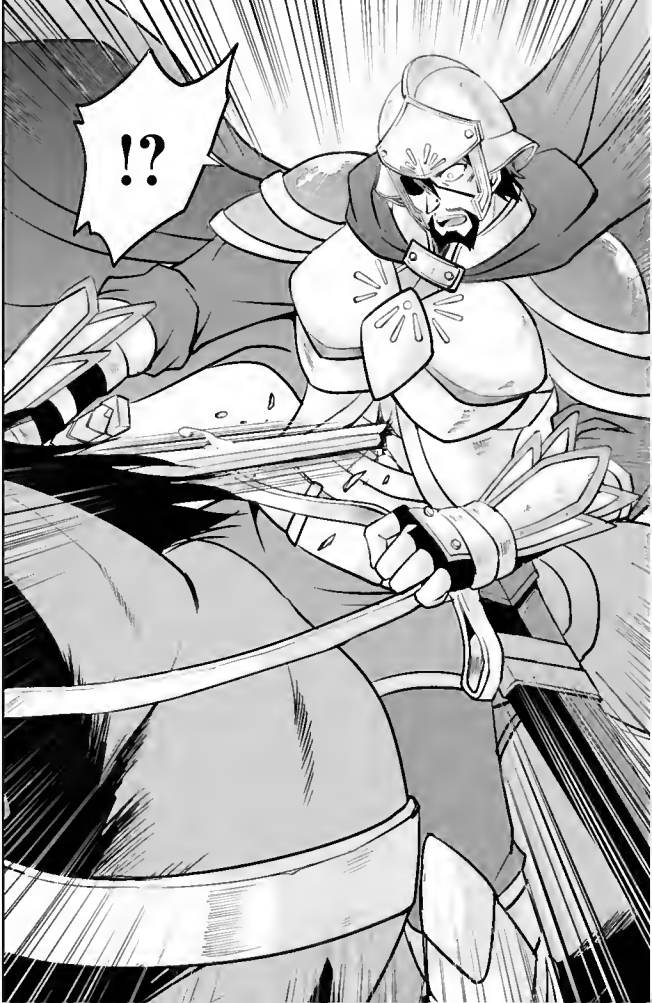
前に出るぞ!!
俺のあとに続け!!

大隊長！
向こう岸に渡った
第一 第三中隊が
攻撃を受けている
ようです！
どうすれば
よろしい
ですか!?
直ちに残りを
渡河させるのだ!!
我ら本陣も
続くぞ!!
は…
はっ!!
進め――っ
前へ
進め――っ!!

何をしている!!
進めと言っておるのだ!!
む…無茶だ……
仲間が目の前で何十人と流されたんだぞ……!
どうかしたのか!?
それが…
兵が怯えて動こうとしないようであります!
かまわん!
騎兵に蹴散らさせよ!

で…
ですが…
ぐずぐずしていては
向こうに渡った隊が全滅しかねないわ！
動こうとしないのなら俺が斬り捨てる!!
先ほどより水は引いている
恐れることはない!!

遅れるな！
味方を
救うのだ!!
ダッ
ダッ
ダッ
ダッ
ダッ
ピー
なんだ？



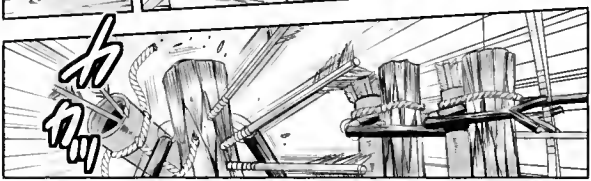
これは…
こ…
み…
水…!?

ま…
魔女か
大隊長
――っ!!

だ…
大隊長!?
先兵を
何人か倒して
気勢を
削げれば
――
そのくらいの
気持ちだった
のですが

こんな
いきなり大物を
倒してしまうなんて
わ
私なんかが
よかったので
しょうか…!?
ビックリ
です…!!
でも…
ぎゅ
ぎゅ
この部隊は
これでおしまい
ですね！
アイスを
置いてきたところ
まで戻るです
一方
交戦中の部隊は
ヒュン
ヒュン

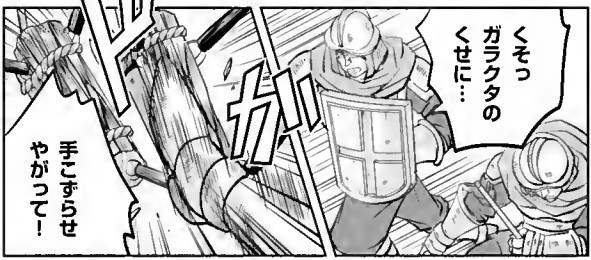
どうせ川には
戻れんのだ
ひるむな
進め――っ
ビィン


カカッ

川の増水は
恐らく魔女の
魔法攻撃
あちらは
またいつ
荒れるか
わからんが
目の前の敵は
小さな人形だ
恐るるに足らず!!
進め
進め
――!!

なるほど
これは
中隊長の
言うように
小さな人形だわ
ガリ
おらあっ

ぐあっ


くそっ
ガラクタの
くせに…
手こずらせ
やがって！

くっ…
木偶が
足りぬか
……

姉様！
敵がどんどん
接近してきます！

どけっ
ガラクタども!!
ふふっ
なんだか
楽しく
なってきた
ぜ…!?

なっ
なんだ!?
敵かっ!?
どうして
魔女が
騎馬で攻撃
してくる!!
ひるむには
まだ早いよっ

たあっ
ゴッ
な…
なんだこいつはっ……
こ…
このつ！
ドッ
ドッ
ドッ

こ…
こいつ
化け物
かっ!!
失敬な…
ネバ
ネバ
奴だなっ
!!
も〜〜〜っ
あったまきた
暴れてやる!!

魔女だ!!
あそこにも
魔女がいるぞ
!!
姉様!!
もう木偶を
操っている
場合では
なくなったな
ハッ!
う…
うわっ!!

うあぁっ
盾だ
盾をうまく
使え!!
!?
あ…
あれは
……
!?

ヴォォ
うわあああ!!
これでもまだ来る…!?

残りは
まかせて――!!
ユウキ!!
このユウキ様の
力を人間に
見せつけて
やるんだから!!
風刃の
乱舞!!!

ぐあああ――っ

も…
もはや
これまで…
か…
ヨロ
引くったって
どこへ…
だが
ここにいても
やられるぞ!!
引け
引け
——!!
あっ
兵たち
が…

俺は騎馬の指揮官を追いかける！
兵のほうは放っておいてもいいだろう！
待ちなさいよ抜け駆けは許さないんだからぁ!!
ま…
魔女の中に男!?
き…貴様何者だ!?

おっ
すまねえな
お安いごよう
うわあああ——!!

ひいいっ

さあて！

き…
貴様も
魔女なのか!?
俺か!?
俺はただの
人間だよ
どうして人間が
魔女の加勢を
する!?

一宿一飯の
恩義が
あるから
かな…
なんの話だ

それよりも
あれだけの
魔法攻撃を
受けてなお
隊を進撃させた
指揮ぶりは
なかなかのもん
だったぜ

おまえは
気に入った
どうだ
降参しない
か!?
舐めるな!
神の敵であり
人の敵である
魔女の
走狗め!!
カサンドラ王国
黒の森侵攻軍
第一中隊長
エイズワースの
名において
貴様を
神の御許に
送って
やる!!
どうやら
話をしても
無駄な
ようだな
ならば
正々堂々
受けて
立とう――

俺の名は
織田三郎信長!!

貴様を屠る男の
名を地獄まで
持っていくがいい!!

オダサブロー・
ノーブルナーガ…
この人の
姓名…!?
ノ…
ノーブル
ナーガって…

いやいや
あり得ないっ!!!
あのすけべ男が
「聖龍王(ドラゴンロード)」だなんて
あり得ないから!

っていうか
あいつ
名乗ったけど
自分の名前を
思い出した
わけ――!?

～4巻に続く～

「黒森学園へようこそ」
PART-II

黒森学園の不良コンビ
アイスとクウ
あぁ
ナーガさん…
胸を鷲掴(わしづか)みにされたあの時から
私のハートもあの人のもの……

どーしたらあの人が私のモノになるのかしら!?
ぎゅぅぅぅ
アイスなのにあつい…
あのぉ……
なにっ!?

お昼休み
ナーガさんを
誘って
一緒に
ランチしたら
どおかな!?

それよ
それ!!
あんた
ぼーっとして
そうなわりには
頭
いいわね!!

さぁ
行くよ!!
極上のおべんとうを
作って
あの人の胃袋を
掴み返す!!
ばいがえし
だ――

いたいた……

クウ呼んできて

え…わたし…!?
つべこべ言わずに行くんだよ!!

ナーガさん
アイスがお弁当作ってきたから中庭で一緒に食べようって

おっそりゃいいな
すぐ行くよ!
やった!!

あっ私も一緒に食べたいな！
いいぜみんなで食べるほうが楽しいし
ノノエルも一緒にどうだ!?
私なんかで良ければぜひ…
ユウキは…
私は男とは食べないっ
そして――
こんなはずでは…
もうっ
スタスタ
私が求めてるのはあんな形じゃないのにっ
スタ

むわっ
!?
オ…
オカルト研究会の
レラ…!!
これは
…
使える!!
三日後——
アイス
頼まれた
ほれ薬
できた
よーし!
ちょうど
いいところに
ナーガさんが
いるわ!!
ターゲット
ロック・オン!!

それをナーガさんにかけるのよ――!!
これっ廊下を走ってはいかんっ!!
あっ!
ドタドタドタ
ナーガさん……!
ポッ
なんでこーなるのよっ!!
~おわり~

落ちてきた龍王と滅びゆく魔女の国 3

2014年9月30日発行 ver.1.0

著　者　村松麻由
原　作　舞阪洸
発行者　三坂泰二
編集長　池上昌平
発行所　株式会社KADOKAWA
〒102-8177
東京都千代田区富士見2-13-3
03-3238-8745（営業）
編集　メディアファクトリー
0570-002-001（カスタマーサポートセンター）
年末年始を除く平日10：00～18：00まで

© Mayu Muramatsu 2014　Kou Maisaka 2013
http://www.kadokawa.co.jp/

※無断で複製・複写・データ配信などをすることは、かたくお断りいたします。

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
MFコミックス　フラッパーシリーズ
落ちてきた龍王と滅びゆく魔女の国 3
発行日　2014年9月30日　初版第一刷発行